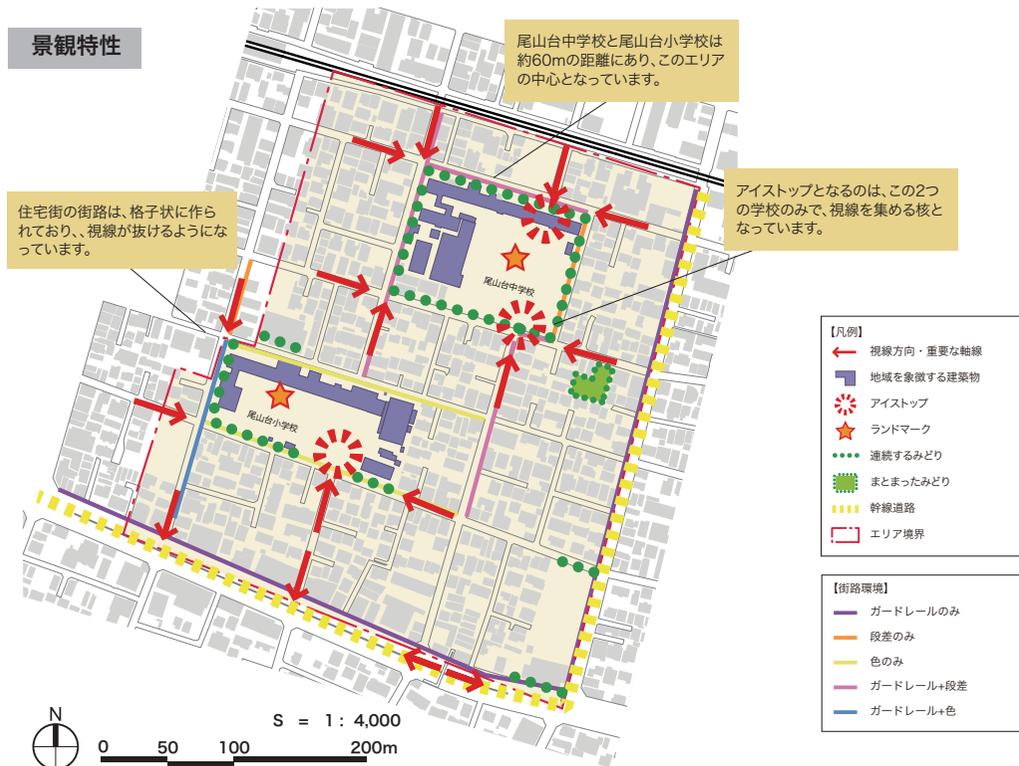


1-2 尾山台3丁目住宅街エリア

尾山台3丁目は尾山台の北東に位置し、尾山台小学校と尾山台中学校を中心に第一種低層住居専用地域に指定されている住宅が立ち並んでいます。全体的に高低差はなく平坦な土地になっています。街路は直線で形成されており、連続した建物が1つの景観となっています。

景観特性



1. 緑と視線の核となる2つの学校



エリアの中心部には、尾山台小学校と尾山台中学校があります。これらは緑の核として、周囲に潤いを与えています。また、子供が行き来する周辺の街路やまちなみは、安全面に配慮したものとする必要があります。

2. 直線道路に連続する住宅



このエリアの大部分が住宅地で形成されています。住宅は素材がコンクリートの建物が多いため、より建物を自然になじませる工夫が必要になります。また、直線道路に並ぶ住宅に緑を連続させることで親しみやすい景観をつくります。

3. 安全への配慮のない街路空間



2つの学校を中心に多くの住宅が立ち並ぶまちですが、住民や子どもが歩く道路空間のデザインは街路によって異なっています。車道と歩道の段差の有無、ガードレールの有無など景観と安全面に影響を与えています。

景観形成の目標

学校を中心とした親しみやすい景観をつくる

2つの学校を核とした緑化と街路空間の統一を図るとともに、それに調和して建物を自然となじませることで、人々の日常に親しみやすい景観をつくる。

景観形成の方針

1. 身近に緑を感じられる景観をつくる

景観形成の考え方

学校の緑を住宅街にも連続させることで、日常に緑を感じられるようにする。

具体的な方策

- 既存の生け垣や、庭木を残す。
- アイストップとなる場所では、積極的に緑化を行う。
- 道路に面した敷地やベランダは、樹木や花で散歩く人を楽しませる。
- 新植の場合には、既存樹木と調和した樹種を選定する。



緑の連続性を途切れさせない

2. 住宅を自然になじませる

景観形成の考え方

建物と自然を調和させることで、住宅地の落ち着いた雰囲気保全する。

具体的な方策

- 色彩は緑と調和したものとし、特に彩度の高いものは避ける。
- 建築素材は、自然由来のものを積極的に使用する。
- ブロック塀はやめ、垣・さくは生垣や自然素材のものを使用する。
- 塀の位置を後退させて植栽用地などを確保する。



自然になじませる工夫

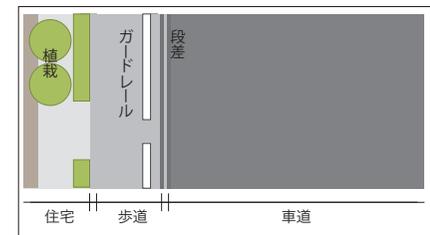
3. 安全に配慮した街路をつくり、歩きやすく快適なものにする

景観形成の考え方

尾山台に生活し、歩く人に快適な歩行空間をつくる

具体的な方策

- 学校周辺と、交通量の多い南北の街路では、段差をつくり、ガードレールを設置する。
- 垣・さくは高さを抑え、圧迫感の無いよう配慮する。
- 特に学校付近では、歩車分離を明確に行う。



歩車分離を明確に行う